



第 62号

# 千 町 田

発行元:(農)のきの郷  
安来市利弘町 922-3  
Tel/Fax:22-2580  
発行責任者:河津 一行

## 10年後を見据えて

代表理事 山本耕一

今年もすでに半年が過ぎました。政府は5月に新型コロナ感染症の5類引下げの決定後、感染者数を明らかにせず感染対策についても各自の判断と投げ出したかのような対応となりました。米の消費状況や農業環境についての諸対策についても同様感じます。

さて、米価が下げ止まり状態でこれから売上を伸ばす手段として土地の有効利用を考えていかなければなりません。現在圃場では2年3作を、水稲・麦・菜種・大豆または水稲・WCS用稲・大豆というように取組んでいます。そのほかにWCS用稲を収穫後に秋冬型キャベツの作付も行っていきます。この作物の中でもWCS用稲の面積をさらに伸ばしたいと考えています。ウクライナ紛争の影響で近隣の畜産農家から粗飼料の要望が多くあり、それに応えるためWCS用稲の作付を増やしそれに伴い大豆の作付も増やす計画としています。



これから先10年のきの郷が解決すべき課題と目指すべき姿をJAの担い手コンサルティングサービスを活用して協議を始めました。のきの郷の更なる成長を目指していきたいと思えます。

### 愛知研修を終えて 飯塚晃史

6月27日〜29日で水士里ネット島根主催の豊川総合用水土地改良区内営農技術先進地研修にのきの郷より4人で参加しました。まずはこのような機会を頂き誠にありがとうございました。

今回の視察では農業生産が全国1位の愛知県(畜産除く)の中でも有数の個人農家(ネギ、キャベツ、キク)と豊川用水について視察させて頂きました。いずれも豊川用水を活用し試行錯誤の上に組み上げられた営農手法や周辺の市場規模を活用した販路確保などにより高収量・高収益を実現しどの農家でも後継者にめどが立っているという状況でした。ある種の農業の完成形を見せて頂いたような思い

でした。

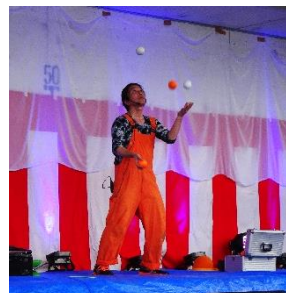
実践されている営農手法は、なすへき作業を適期に実施するための人・材・機械



を整え、それぞれに少しずつ工夫や改良をこらした独自の栽培暦や手法を元に営農していく、という農業のあるべき姿を真直に行われているという印象でした。この視察で、作業に工夫や改善を加えていくという基本的なことの大切さを再認識しました。また日々の作業でコツコツ積み重ねていくことで種々の課題を解決することに繋がっていききたいと思えました。

また、今回の視察で同行した県内の他営農組合の方々との繋がりをもちたことも良かったです。10年20年先には安来市や島根県といった単位で人材を共有するようなことがあるかもしれません。今回の繋がりが島根県の農業を盛り上げていく上で何かのきっかけにできたら良いと思えます。





7月15日に4年ぶりで、きてごしない祭りを開催しました。久しぶりの開催なのでどのくらいの人に参加していたか不安でしたが、当日はたくさんの人出でとても

屋台も好評でほぼ完売することが出来ました。最後に空くじなしの大抽選会の妙技を堪能しラオケ大会で大いに盛り上がりました。優勝は飯生町の佐伯伸男さんでした。

選会を行い無事終了することが出来ました。諸事情により時間が伸びてしまったのですが、最後までお付き合いただきありがとうございます。



## 田んぼの様子



作が終わった田んぼから順次種まきをしていきました。小麦と菜種の後

暑い日が続きます。稲はすすくと育ち、つや姫の圃場では稲穂が頭を垂れています。WCS用稲は刈取りの真っ最中です。田んぼにはロールシラップの終わったものが積まれています。大豆は前



の田んぼでは緑の葉っぱを大きく広げています。ハウスの中ではとまが青い実をつけて育っています。8月中旬から収穫の予定です。ぶどうハウスでは袋かけが終わり収穫の時間を待っています。

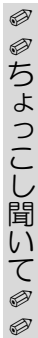


お悔やみ申し上げます  
飯生町 佐伯 強志 様



### ◎お知らせ

9月初旬よりぶどうの販売を始めます。品種はシャインマスカットです。ご希望の方はきのの郷事務所までお問い合わせください。



あちらこちらで久しぶりの夏祭りのニュースを聞いてうれしくなっています。子供達にもいろんな体験させてやりたいですね。(笑)

